

支援だより



平成 27 年度第 2 号
平成 27 年 5 月 29 日
神奈川県立中原養護学校
支援連携グループ

初夏の季節を感じさせるなか、新たなスタートをきった児童・生徒達も日々の学校生活を満喫しています。今回は、IT 支援係より『特別支援学校向けデジタル教材開発の取り組みについて』と、校内外支援係より『世界の理学療法』についてお知らせします！！

IT 支援だより

特別支援学校向けデジタル教材開発の取り組みについて(岩崎学園情報専門学校との連携)

IT 支援専任 伊藤元久

本校、支援グループ IT 支援係では、校内ネットワークの維持管理、HP による外部情報発信、ICT 機器を利用した授業支援だけでなく、支援機器の作成やデジタル教材開発、およびその研修会などを行っています。その一環として、神奈川県課題別図書館 (<http://kadaibetsu.net/>を参照してください。課題別図書館に IT 支援係として全面協力しています)を通じて岩崎学園情報専門学校と連携してデジタル教材を自主開発してきました。昨年度も中原養護学校において保護者および職員向けのデジタルソフト体験教室の開催を行いました(主催:本校支援グループ、共催:岩崎学園情報専門学校、課題別図書館)。この体験教室では本校で使用しているデジタルソフトや自主開発ソフト、岩崎学園情報専門学校との連携開発ソフトなどを実際に使用し体験してもらい、今後も授業などへの活用だけでなく、ご家庭でも活用していただければと思っております(体験教室で使用したソフトは無料配布可能です)。また情報専門学校の学生にも体験教室に参加してもらい、自分たちの開発したソフトの説明や解説してもらいました。これは児童生徒に直に接した経験をソフト開発に生かしてほしいとの考えです。実はこの体験教室は岩崎学園情報専門学校の先生からの「学生たちが開発したソフトがどのように使われるのか?どのような使い方をされるのか?ぜひ学生たちに見せたい」との要望があり、中原養護学校としても学校の実態など外に発信できるなどのメリットもありこれがきっかけで体験教室を企画したわけです。



使用したソフトは、絵合わせ、かくれんぼ、お財布ソフト、50音ひらがな入力ソフト、マッチングソフト、お財布ソフト、意思伝達ソフトなど過去にここで紹介したことのあるソフトの他、初めてここで公開された「スマホでゲーム、キネクトでゲーム・買い物、シューティングゲーム、バーコードリーダーを利用した音・画像表示ソフト、かくれているのな〜んだ」など。各ソフトの詳細はまた別の機会に紹介する予定です。

(各ソフトについての詳細は IT 支援係まで)

今年度に関しても、すでに岩崎学園情報専門学校と何度か打ち合わせを行い、プログラム開発の詳細を検討しました。そのうち中原養護で検討した、これから作成しようというデジタルソフト 3 点を紹介すると

・買い物ソフト

実際の買い物をするときお金を払い、おつりを払う動作をシミュレーションします。お金をボール紙などで作り、IC タグを裏に貼り、払ったお金をパソコンに取り込み、お釣りを計算します。

・ATMシミュレーションソフト

銀行でATMにお金を入れる、引き出す操作をシミュレーションします。模擬お金の裏にバーコードを貼りそれを使って模擬お金をバーコードリーダーを通してPC上のATMに入れます。

・キネクトを使った「かくれているのなんだ？」

キネクト(人の手などの動きを感知してPCに伝える装置)を使い、雑巾で拭くように手を動かしたところから画像があらわれます。

いずれのソフトも実際の動きや作業をシミュレートしそれをPCに取り込み学習するという、今までにない、意欲的なデジタルソフトと思っています。完成したら、ここで紹介する予定です。ご期待ください！

校内外支援PTより

世界の理学療法

理学療法士 本杉直子

昨年度の初回は、以前私が働いていたフィジーの理学療法についてご紹介させていただきました（HPから参照できます）。今年度も初回だけお付き合いいただき、カンボジアの理学療法についてお話ししたいと思います。

かなり前の話ですが・・・、遺産好きな私はカンボジアの歴史と理学療法について興味を持ち、多くの方の協力の下、カンボジア国内のリハビリテーション施設、職業訓練所、理学療法士養成校を見学させていただく機会をいただきました。

カンボジアはインドシナ半島中央南部にある国で、アンコールワット世界遺跡で有名な国です。1960年代のベトナム戦争の影響から内戦となり、この時期から地雷が使用されるようになりました。地雷は残虐な性質の兵器であり、紛争後も半永久的に爆破して被害者を生み出します。

地雷



〈医療〉

国立病院、州立病院、郡立病院、ヘルスセンターを設置していますが、海外からの援助でなんとか運営を維持しているようです。

〈義肢装具〉

カンボジアで製作される義肢装具は、農業や漁業、建設業などの労働に従事できるような素材で作られることが多いです。すべての義肢装具は無料で配布されています。部品は

義足



赤十字やNGO等が無償供給しています。そのため、規格が統一化され、国内どの施設でも容易に修理や部品交換が可能となっています。

〈リハビリテーション〉

2005年時点ではNGOにより14か所の義肢・リハビリセンターと9か所の職業訓練所を運営されています。

リハビリ施設



病院の数が少なく、救急搬送体制も未整備であり、医療の面からの課題は多いですが、リハビリ施設は充実しつつあるように感じました。しかしリハビリ後の社会復帰が困難なようでした。一部の方は職業訓練所に入ることが可能ですが、その他の方は自分の村に帰らなければならず、農村では就労することが困難です。

かなり前のデータや状況の紹介ですので、現在は改善している点も多々あるかと思います。今後も何らかの形で世界の理学療法に貢献していきたいと思っています。



支援だよりへのご感想、

ご質問は中原看護学校ホームページ

e-mail : nakahara01-sh@pen-kanagawa.ed.jp まで！

[http:// www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/](http://www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/)